

令和三年度

# 水について考える

第四十三回 「全日本中学生水の作文コンクール」 茨城県優秀作品集

茨城県

第四十三回 茨城県優秀作品（令和三年度）

【最優秀賞】

カレーの中の危機

土浦日本大学中等教育学校

三年

網永

莉々

.....

1

【優秀賞】

当たり前にある水

筑西市立下館中学校

二年

奈良部

十和子

.....

3

水と共に生きる幸せな未来のために

筑西市立下館中学校

二年

藤代

かりす

.....

5

未来へ繋ぐ

筑西市立下館中学校

二年

藤野

美唯

.....

7

青い地球を守るために

筑西市立下館中学校

二年

柳田

結衣

.....

9

【入選】

縁の下の力持ち

水戸市立第四中学校

三年

山田

和香

.....

11

いろいろな顔をもつ水

水戸市立第四中学校

一年

石崎

美藍

.....

13

大切な水

水戸市立第四中学校

一年

横山

明音

.....

15

水について考える

筑西市立下館中学校

二年

佐藤

史夏

.....

17

「水の日」及び「水の週間」について	開智望中等教育学校	二年	鴻 <small>こうのす</small> 巢 <small>す</small>	琳 <small>り</small> 央 <small>おう</small>	19
誰もが笑顔で水を使える世界へ	開智望中等教育学校	二年	関 <small>せき</small> 口 <small>ぐち</small>	さくら	21
海洋汚染について	開智望中等教育学校	一年	古 <small>ふる</small> 谷 <small>や</small>	溜 <small>りゅう</small> 士 <small>と</small>	23
第四十三回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について					26

第四十三回

茨城県優秀作品

(令和三年度)

## 最優秀賞

カレーの中の危機

土浦日本大学中等教育学校

三年 網 永 莉 々

私は驚いた。

カレーライス一杯に一〇九五リットルもの水が使われていたのだ。この水の量は浴槽五杯半に匹敵する。私はこの沢山の水を一度に飲むことを想像した。水が喉につまんで、溺れたような息苦しさを感じた。

この数字はバーチャルウォーターという考え方で試算された値だ。バーチャルウォーターとは、食料を輸入した時に、その食物生産に必要とされる水の量である。食料自給率が三十八パーセントと低い日本において、輸入は食料の十分な確保に必要不可欠であり、それと比例してバーチャルウォーター量は莫大となる。過去には日本の輸入食物全てに必要な水は八〇〇億立方メートルという途方もない数字が

算出されている。

例えば一キログラムのトウモロコシを生産するには、一八〇〇リットルの水が必要となる。牛はこうした穀物を大量に消費しながら育つため、牛肉一キログラムを生産するには、その約二万倍もの水が必要となるのだ。

バーチャルウォーターの輸入量が多いことには問題がある。それは輸出国の水を過剰に利用し、その国の水問題を悪化させてしまうことだ。例えば、中東オマーンでは、砂漠に囲まれた農場で、日本向けのインゲンを栽培している。年間降水量一〇〇ミリで河川のないオマーンは、水の確保に日々奮闘している。貴重な水は日本へ輸出する食料の為に使われる。遠い国の問題だと思っていた水不足は、実は私達自身の問題だった。

カレーの皿の中で、複雑に国際問題が渦巻いていることに、私は危機感を覚えた。食材の輸出国は豊かな国ばかりではないだろう。私たちが輸入した食品が、彼らの利用できる水を減らし、時には命を奪ってしまっている。先進国が世界の水資源を独占し

てしまう今の世界の経済システムは不平等だ。

SDGsは目標の一つに「人や国の不平等をなくそう」と掲げている。豊かな国が開発途上国を追い詰めているようにも見える現状に、私の心は痛みを感じた。私が一口飲むコーヒーが、何も考えずに食べたチョコレートが、誰かを犠牲にしているのだ。

今を変える為に、何をすればいいだろうか。

日本では年間二五三一万トンものフードロスが生まれている。大量のフードロスは輸出国の大量の水資源を捨てていることと同じだ。昨今その無駄をなくす為にコンビニでの廃棄削減への努力は共感できる。家庭でのフードロス削減に私がすぐできることとして、地産地消が考えられる。食べ物も飲み水も自分の住む地域で調達することが、地球環境への配慮、そしてバーチャルウォーターの削減にも繋がるのだ。

私は今日、ビオトープの水田で田植えを行ってきた。泥だらけで足腰も痛くなつたが、青空の下で大勢の力で整然と植えられた苗を見て誇らしくなった。ここで育った米は、近隣の小学校の給食や餅つき大

会で提供される。自らが作った米を食べ、「おいしいね」と皆で笑いあう幸せを私は体験した。誰も苦しむことのない食べ物。地域の皆で作った米が、私に地産地消の意義を示してくれる。稲作は収穫まで多くの水が必要とする。だが、使った水は循環し、利用できる水へと戻って来る。地産地消は環境負担も少なく、外国の水資源を奪うこともない。私は田作りで世界のためにできる事の一つを身をもって体験した。

日本ではバーチャルウォーターの増加に歯止めがかからない。輸入を完全に断つことは難しいだろう。でも、私達一人一人がテーブルの上で起きている、遠い国の出来事に目を向けることで、世界の水問題の改善に一歩ずつだが、しかし着実に近づくことができる。

人や国の不平等がない世界。私は人々の幸せでできたカレーを作る。

## 優 秀 賞

当たり前にある水

筑西市立下館中学校

二年 奈良部 十和子

私は、新型コロナウイルスの感染対策として、毎日手洗いがいをしています。手洗いがいをする時には、水道から出る水を使います。蛇口をひねれば水が出て、しかも透明で清潔な水を当たり前のように使い、飲むことができます。

今テレビをつければ、コロナの話題ばかりです。特にインドでの感染爆発はすさまじく日本の感染状況とは比べものにならないくらい悲惨な状況だということがすぐに分かります。病院でもない、普通の屋外に苦しうに横たわる人々が映され、私の住む日本とは全く違うんだと知りました。映される映像を見ただけで、私が日々手洗いがいのために使用しているきれいな水など、ここにはないんだと思

ました。もしかしたら、きれいな水を使うことができなことも、コロナウイルスがどんだん広まってしまった理由のひとつなのかもしれません。その時に、以前本で読んだ恵まれない状況にあるアフリカなどの発展途上国のことを思い出しました。今回、それらの国々の水について調べてみようと思いました。

現在、水道を使用できる国は世界の半数以上ある一方、半数近い国は水道がありません。水道があつて当たり前だと思っていた私は、世界の半数が水道すらないことに驚きました。

六億人を超える人々が、安心して飲める水が身近になく、池や川、整備されていない井戸から水をくんでいます。多くの途上国では水くみは子どもの仕事だそうです。小さな子供達が水の重さに耐えながら、毎日遠い道のりを歩き続けています。もちろん疲れ果てた子供達は、学校に通う時間も体力も残っていません。このことを知った時、私はとても心苦しい気持ちになりました。私たちが楽しく学校生活を過ごしている間にも、この子供たちは生きるため

の水を求めて歩き続けているのです。ようやく水源にたどり着いても、これらの水は多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混ざっています。浄水処理をしないで飲むので、子供たちは下痢をおこしてしまいます。下痢で命を落とす乳幼児は、年間三十万人、毎日八百人にもものぼります。

私は小学生の時、上水道処理施設見学に行き、浄水処理した水を飲ませてもらいました。浄水処理をすることによって、きれいで安全な水が生まれます。色々な不純物が混ざっていて飲めない水が、こんなにきれいでおいしい水になるんだと、その時とても感動しました。もし、このような清潔な水がなかったらと考えると私は怖くなってしまいます。

しかし、この子供たちは清潔とはほど遠いひどい環境に置かれています。身体や生活環境を清潔に保てないから、コレラや赤痢など様々な感染症の伝染が発生します。発展途上国の水について調べている時に、一枚の写真がありました。それは、茶色に濁って水を飲んでいる少年の写真です。きっとどうすることもできなくて、生きるためにこの水を飲むし

かなかったのだと思います。この写真を見た時、私たちがどれだけ安全な環境で生活することができていたか実感しました。

現在、日本ではコロナウイルスが脅威になっていますが、途上国では日々色々な感染症が発生しています。それが今私たちが当たり前のようになっています。いるきれいな水があれば少しでも減らせるのではないかと思います。

私は今回改めて、安全な水を供給してもらっていることに感謝しなければならぬと思いました。このような安全な水をこれからも使用できるように、日々水を大切にしていきたいです。



## 優 秀 賞

水と共に生きる幸せな未来のために

筑西市立下館中学校

二年 藤 代 かりす

「生きるためには、どんなに汚い水でも飲まなくてはいけない。」この言葉は、私にとって大変衝撃的だった。

水が自由に使え、水のある生活が当たり前だと思っていた私はちょうど一年前、このテレビCMをきっかけに、同じ地球上でも水の環境に格差があることを知り、世界の水事情を自分なりに調べた。発展途上国を中心に水不足や水源の汚染、二十億人以上の人が安全な水を手に入れることができない。不衛生な水で命を落とす。水汲みのために学校へ行くことができないなど、たくさん問題があることが分かり、水を大切に使用しなければいけないと痛感した。そして、自分にできることを考え、節水や汚れ

たものを直接流さないなどを意識して生活するようにしてきた。でも、やはりそれほど危機感を持っていないためか、つつい出しっぱなしや使い過ぎてしまっていた部分があった。

今、世界ではSDGsの取り組みが行われている。私達の学校でも昨年、総合の授業でSDGsについて学んだ。SDGsという言葉は、テレビなどを通して知っていたけれど、詳しい取り組みは知らなかったもので、とても有意義なものであった。17の目標の中で興味をもった分野でグループを作り、最終的にパビリオン形式で発表を行った。私は、今までの経緯から水に関心があったので、「目標6安全な水とトイレを世界中に」を選択した。

水不足や劣悪な水質、衛生施設の不備は医療や教育などに悪影響を与える。命に関わる大きな課題を抱えているのだ。そこで、すべての人々に飲料水、トイレ、衛生設備などを提供することを目標としている。これらの取り組みは、私が衝撃を受けた発展途上国の水問題解決につながっていくものであると思う。

現時点で、劣悪な水質衛生環境下で暮らす人々の多さには改めて驚かされた。特に、トイレがなく、道端や草むらで用を足す人は約七億人もいるのだ。今の日本では到底考えられないことである。この学習会をしていく中で、様々な問題及び水との関わりを考えさせられた。

「水の惑星」といわれている地球。豊富な水と自然豊かな地球も今、危機に迫られている。地球温暖化に伴う気温の上昇などで異常気象が起こり、台風や豪雨、記録的な猛暑が増えたり、水不足など、深刻な影響を与えている。生きていくうえで欠かせないありがたい水も、場合によっては私たちに脅威をもたらしてくる。

日常使う水は、川から取り入れられ、浄水場できれいにされて私達のもとに届く。水は雨や海水などが形を変えて自然の中を循環しているため、森や土の環境が悪くなるときれいな水がつかれなくなるそう。きれいな水をつくるためには自然環境全体を守らなければならない。今問題視されているプラスチックによる海の汚染もその一つであると思う。

一定のサイクルで地球上をめぐるっている水。私達の生活が豊かになった分、使用できる量も質も下がってきてしまっている。限られた水を、私達が大切に使って守っていく必要があるのだ。

SDGs、17の目標はそれぞれが一つの方向から考えるのではなく、すべてのつながりを考えながら取り組むことによって達成するものだと思う。この学習会は、世界の現状を知る最初のステップではあるが、改めて水の大切さや、必要性を知ることができた。ここで知って終わりにするのではなく、次は「考動。」私たちに何ができるかを改めて考えて行動し、美しい地球を守っていききたい。安全な水で、すべての人が幸せになる未来を目指して。

## 優 秀 賞

未来へ繋ぐ

筑西市立下館中学校

二年 藤野美唯

私が生まれた時から、川は身近にありました。五行川または勤行川です。関東平野の北部から南部へと流れる一級河川です。春には桜が咲き誇り、桜の下で家族写真を撮るのが毎年恒例の行事になりました。夏は下館祇園まつりの川渡卸が、秋には鮭の遡上を見ることができません。天気が良い日や、なんとなく落ち込んだ時には、川のせせらぎや水の流れを見に行きます。川沿いを散歩したり、サイクリングをすると、すがすがしい気分になれます。川はいつもその姿を変えず、私に寄り添ってくれました。そんな自分にとって当たり前のように存在していた五行川に興味を持ったのが小学校の授業でした。そして、五年生の夏休みを利用して、妹との自由研

究で五行川の水質調査をしました。身近なところにある川がどこから来ているのか？川の水を調べることは、環境を調べるうえで、重要なのではないかと思います。ごみを燃やすことで発生するダイオキシン、現在では製造禁止になっているPCBなどの化学物質などにより、毎日飲んでいる水や食品、空気などが汚染されていると聞いたことがあったためです。研究の方法として、川の様子を観察やパックテスト（水質検査キット）による水質検査を行いました。栃木県のさくら市にある水源地から、小貝川に合流する筑西市まで、五か所で調査をしてみると、水源地のみCOD（化学的酸素消費量）がやや高かったものの、上流・中流・下流でも特に目立った結果は出ず、とてもきれいな川だということがわかりました。そして、観察をして感じたことは、水源地から下流まで田んぼの中を流れる農業用水として重要な役割をはたしている生活に欠かせない川だということ（利水）、洪水などを防ぐために川岸がコンクリートで作られているところも多い（治水）、工場排水や生活排水などの汚染も見られない、

みんなに大切にされている川であるということですが、他にも、栃木県的那珂川、茨城県の霞ヶ浦、鬼怒川なども比較して調べてみましたが、特に問題となる数値は測定されませんでした。環境問題が深刻だと思っていた川や湖は今ではきれいに整備され、水質もきれいに保たれていたのです。水は人々の心に寄り添い、地域の生活や文化と深く結びついています。大切な川や湖を地域の方々がきれいにしようとする努力しているのだと感じとてもうれしくなりました。

水を大切にし、その環境を守ることは私達の生活を守ることもつながると思います。日本のように水道水が飲める国は世界に十五か国しかありません。今も収束する気配がない新型コロナウイルスですが、下水設備が完備されている国では、コロナウイルスの増殖が極めて低いそうです。蛇口をひねれば水が出る、感染を防ぐために手を洗う事は当たり前ではないのです。

現在のように、川をきれいにし、安心して水が使えるようになった背景には多くの人たちの努力があったのだらうと思います。便利な時代になったから

とあって、それを当たり前だと思わず、水の大切さに感謝し、昔の方々が大切な川を守ってきてくれたように現代に生きる私たちも、この環境を守り続け、未来に受け継いでいきたいと思えます。母親になってもおばあちゃんになっても、毎年、川沿いにあるきれいな桜といっしょに写真を撮れるように。

## 優 秀 賞

青い地球を守るために

筑西市立下館中学校

二年 柳 田 結 衣

「水は貴重なので、ほぼ一〇〇パーセントリサイクルです。おしっこも蒸発させて、水だけ再利用しています。」これは、宇宙飛行士の野口聡一さんが宇宙ステーションから宇宙に滞在している間の生活をレポートしていたなかでの話です。私はこの事実にびっくりしてしまいました。なぜなら、世界最高クラスの科学技術や知識が集結した宇宙ステーションなら、理科の実験のように「水」を簡単に生成できると思ったからです。そして、野口さんが宇宙ステーションから青い地球をみながら「地球は本当に美しいですよ。」と何度も言い、最後に「大事に守っていかねければならないと思います。」と語っていたことがとても印象的でした。

このことをきっかけに、地球や水について調べてみました。地球の地表の三分の二が水であること。しかし、その水のほとんどが海水で、淡水はわずかに二・五パーセントその淡水の七〇パーセントが南極や北極の氷、地表から深いところにある地下水で、私たちが実際に使える川や湖の水資源は、地球上全体の水のほんの〇・〇一パーセントしかないことが分かりました。数字だけではあまりピンときませんがお風呂いっぱいの水を地球全体の水とすると、私たち人間が使える水は、たった大さじ一杯ほどです。普段、何気なく使っている水が実はとても貴重なものだ実感しました。時々、お風呂のお湯をうっかりあふれさせてしまい母から「もったいないっ！」としかかられている私はこのことを知って「本当にもったいないことをした。」と心から反省しました。

私が生活で使っている水は、三十キロ以上離れた霞ヶ浦から引かれています。私は小学生の時に「霞ヶ浦湖上体験」で「水」について学びました。湖に生息するプランクトンを含む生物の生体系のバラ

スが崩れるとアオコが発生して、湖にすむ魚が死んでしまったり、イヤな臭いを発生して、私たちが使う水にも影響することを知りました。遊覧船から見た霞ヶ浦は、決してきれいとはいえない水で生臭いような臭いもして、「この水を飲んでいる」とは思いたくないものでした。湖の水がゴミや生活排水で汚れた水をきれいにするのに重要な役割をするプランクトンが年々減っているそうです。

きつとこのことは、霞ヶ浦だけでなく、他の川や湖でも同じではないかと思えます。源流から湧き出た清らかな水が山を下り、私たちの生活圏を流れるうちに、私たちが出すゴミや生活排水によって知らず知らずのうちに水を汚してしまっているのだと思います。人間だけでなく、地球上に生息する生物は水が無くては生きられません。水を汚すことは、自然を汚すこと、自然破壊にもつながると思えます。それは、自然本来のサイクルを壊してしまい世界的に問題になっていく地球温暖化による異常気象など、とり返しつかないことになってしまうのではないのでしょうか？

貴重な資源である水のために、私に何ができるだろうと考えました。洗顔や歯みがきのときに水をだしっぱなしにしない、お皿やフライパンなどの油はキッチンペーパーなどでふいてから洗う、シャンプーや洗剤の使う量を最小限にする、トイレの音消しのために水を流さない、そしてお風呂をうっかりあふれさせない、などです。ほんのささいなことも、毎日の積み重ね、継続することが大切だと思います。現在、人類が生きられるのは、「水」が存在するこの地球だけだそうです。唯一無二のこの青く美しい地球を守るために、身近だけでも必要不可欠な「水」を大切にすることから始めたいと思います。そして、私の子どもや孫たちに繋いでいきたいです。

## 入 選

縁の下の力持ち

水戸市立第四中学校

三年 山 田 和 香

水は目立ちません。この機会に水について考えてみて、こんな言葉を思い出しました。それは、「水は縁の下の力持ち。」という言葉です。これは、水は普段目立つことはないけれど、無いと絶対に生活できないということを表しています。例えば、手などの汚れを落とす時、料理をするとき、洗濯だってできません。それなのに、日本で暮らしている私たちが「水」についてその貴重さや大切さを考えることはほぼありません。

まず、水道水が飲めるという概念は当たり前ではありません。そんな国は世界でたった十五か国しかないと言われているのです。世界では約二十二億人もの人々が安全な水を使えていないことになりました。

私たちが住んでいる日本は世界一といわれるほど水道水がきれいです。それは、水質の基準がとても厳しく設定されているからです。その基準というのは法律で定められていて、第一に「水道水を生がい飲み続けても人体の健康に全く悪影響がないこと」というのが絶対条件だといわれています。そのため百項目以上の条件を日本の水道水はクリアしています。それだけしなければ飲める水道水は得られないということです。開発途上国の中でも特に開発が遅れている国々や農村部では危険ととなり合わせの水を使用しています。そのような国での水はじゃ口をひねるのではなくくみに行くものです。けれど一日のほとんどを費やしてくむ水はほとんどが汚染された水です。その水で命を落とす子供の可能性は紛争などがある地域では暴力で命を落とす可能性よりも高いとされています。それから、水不足は貧困などにも影響してきます。水くみに追われる人々はそれだけで時間をうばわれ、十分な教育を受けることもできません。そのせいで私たちが当たり前に語る将来の夢をみることもできないでいるのです。水の問

題は単に水を使うときに困るだけでなくその先にある人々の人生に関わってくる問題だといっても過言ではないでしょう。

私はこれまで海外に行つて水不足を体験したことは一度もありません。けれど日本に住んでいて一度だけとても水に苦労したことがあります。それは、東日本大震災での出来事です。私はそのときはまだ幼稚園生だったのに、いつも普通に使っていた水がいきなり使えなくなつたのはあの頃の私にも衝撃的でよく覚えています。私の家はお風呂に水をためていてそれを少しづつ使っていました。トイレをするときなども自分勝手には出来なくて流すのもお風呂にためた水をバケツでくんで流していました。それでも、その水を飲むわけにはいかないので料理は全くとできなくてお風呂やシャワーを使えない日は何日も続きました。けれど、それはやはり一時的なことであつてそれが日常の出来事であるのとはわけが違います。きつとこの日本に住んでいればどんなに貧困に苦しんでいる人でも水不足の国に住む人たちよりは水に恵まれていると思いません。私はこの出来事

を思い出した今、絶対に水が貴重であることを忘れてはならないと強く思いました。

水は目立ちません。きつとこれから水が人々の先頭に立つような画期的な進化を遂げない限りそのままだと思います。それでも、ふとしたときに考えてほしいのです。ただ一時だけでも、水を使えることに、その環境が恵まれているということに気付いてくれたらいいなと思います。「縁の下の力持ち」がそれだけで終わらないように小さな輪からでも水の大切さを広めていくことができればと思います。



## 入 選

いろいろな顔をもつ水

水戸市立第四中学校

一年 石 崎 美 藍

水という言葉から思いつく事、それは、おいしい、きれいな水、便利、恐怖など。蛇口をひねると簡単にでてくる水、顔を洗ったり、歯をみがいたり、水を飲んだり、トイレやお風呂、掃除など、朝起きた時から夜寝るまで一日中私達は水を使っています。そんな私達の生活になくてはならない水ですが、時には、恐ろしいものになる事もあります。私が二歳の時に起きた東日本大震災では、建物や車を流してしまうほどの津波が起き、人の命もたくさんうばいました。私は当時の記憶はあまりありませんが、毎年見るニュースで恐怖を感じています。私達の住む水戸市でも断水が起きました。私の家は二日間でしたが、その間にお父さんや近所の人達と笠原水源に水をくみ

に行きました。それでも生活するには全然たりる量ではありませんでした。自然災害がおこる事により恐怖でもあり不便になる事もあります。

私は、小学生の時に社会科見学で楮川浄水場に行きました。浄水場では、那珂川の水を取水塔からくみあげ、ダムへ貯水し、きれいな水を作っています。かつ水や災害で水をくみあげられない時に備えて、水戸市で使う二週間以上の水をダムに貯水する場所だという事を知りました。その時に浄水場で働く方が、

「東日本大震災の時には、みなさんのお宅に水を届けする事が出来ず申し訳ありませんでした。」

と、言っていました。私はなぜ浄水場の方が私達に謝っているのが不思議でしたが、それだけ水が人の生活にかかせないものであり、命も守る大切なものだと改めて感じました。それと同時に、浄水場の方々は、市民の生活を守る事に責任を持って働いているのだなど、とてもありがたく感謝しなくてはいけないと思いました。

今回、この作文を書くにあたり調べてみると、生

活する中で、食事の準備や皿を洗うなど、家の中でみんなの為に使う水の量は、なんと、一人一日あたり約三百リットル使っていることが分かりました。三百リットルと言ってもピンときませんが、二リットルのペットボトルで考えてみたらすごい量でした。私は、毎日お風呂を洗いお湯をためる事が当番です。しかし、先日、いざお風呂に入ろうと思った時、お湯がぜんぜんたまっていませんでした。栓をし忘れてしまいました。その時は、「やってしまった！」と、とてもショックを受けました。そして今思うと「ペットボトル何本分だったのだろう」と、その時の事を思い出し、確認がどれだけ大事か反省しました。でも、その日ショックを受けかなしい気持ちで入ったお風呂でしたが、きれいで温かいお湯は気持ちよく、その日のつかれをとってくれました。水は、私達の気持ちをきり替えてくれる素晴らしいものもありました。

もう一つわかった事は、水戸という地名の由来についてです。昔から海や川の水の出入口のことを「みと」または「みなと」と呼ばれていました。水

戸の場合も那珂川と千波湖との間に突き出した大地の先たんだった為、水戸という地名になったという事です。水戸は水との関わりがある事も知り、より水が身近に感じました。

今まで蛇口をひねれば水が出るとあたり前に思ってきた事、でもそれはあたり前ではない。これから少しでもその事を意識し、水がある生活に感謝して大切に使用したいと思います。水に恵まれている今の生活をこれからも続けていけるように。

## 入 選

### 大切な水

水戸市立第四中学校

一年 横山 明 音

私達は生きていく上で、たくさんの水が必要です。まず、人間は水が無かったら死んでしまいます。水は色んな所で使われているからです。水は飲み物にする他に、料理をする時や、手を洗う時、トイレなど数えきれない程活躍しています。

では、実際に家庭でどれくらいの水を使っているのでしょうか。調べてみたところ、私の家では、二カ月で約六十〜七十<sup>m</sup>使っていました。三人家族で毎日洗濯したり、お風呂を使ったりすると、かなりの量の水を使っていることが分かりました。

次に、水とお金についてです。水は使えば使うほど、お金がかかります。令和二年四月に水戸市は水道料金を改定しました。理由は、水戸市の浄水場な

どの施設の多くは、今から三十〜五十年程前に整備されたため、水道管も古く、こわれてしまう可能性があり、新しくするためのお金が必要になったからです。新しくするのは四十年ほどかかるそうです、約一千四百六億円もお金がかかる見込みです。気が遠くなる料金ですが、これらは全て市民からの水道料金でまかなわなければならないそうです。そのため水戸市の水道料金は上がりましたが、それでも茨城県内で六番目に安いそうです。

次に、水が及ぼす影響についてです。茨城県には、たくさん湖や川があります。このような場所には、動物や植物が住んでいて、私達の食料となっているものもあります。また、その水が蒸発して空気が湿ったり、雨になったりすることもあります。雨が降ると、植物は成長します。しかし、水が及ぼす影響は良いものばかりではありません。例えば、大量の雨が降ると、洪水になってしまいます。逆に雨がずっと降らないと、水不足になったり、気温が上がったりします。私は、水を上手に利用するのは、とても難しいことだと思いました。そこで、水の被害

の対策について調べました。それは、ダムや堤防です。ダムはたくさん水をためることができます。堤防は川などの水かさが増えても、あふれないように、防ぐことができます。大切な水を上手に利用するために、昔の人々ががんばっていたと思うと、自分も水を大切にしようと思えます。

私が住んでいる、この水戸市には、たくさん水があります。私は休日、千波湖に行くことがあります。家族と話しながら歩いていると、とても気持ちの良い風がふいてきます。鳥や魚もたくさんいて、楽しくなります。水は、私達の生活で使われる他に、人の心をやすらかにする効果があると、私は思います。また、楽しみもあると思います。千波湖にはボートや噴水があり、体験することもでき、見ることもできます。生き物もいるので、エサやりなどもできます。しかし、そこにもし、水が無かったら、どうなっていたでしょうか。水があつた時程、気持ちの良い風がふかなくなり、鳥や魚もいなくなつて、ボートも、噴水も、もちろん無かつたと思います。水が無くなつたら、それに代わるものはないと、私

は考えています。今、私達は水に助けられて生活しています。将来、水と上手に生きていけるよう、水を大切にしたいと思います。

## 入 選

水について考える

筑西市立下館中学校

二年 佐藤 史 夏

私たち生き物にとって、水はとても大切で身近にあるものです。身近にある川や湖、海などの水質が近年悪化しています。悪化が進みすぎると、私たち生き物が生きて行くことができなくなってしまいました。そのようなになってしまわないように、水質改善のために私たちにできることはどのような事でしょうか。

まず、私たちができることの一つとして、水を出したままにしないことです。水を出したまま、手を洗ったり、うがいをしたり、食器等を洗ったり、その他のさまざまなことに水を使って、水を止めないでいると汚れる水の量が多くなってしまいます。汚れる水が多いと、その水をきれいにするために工場

の機械を動かし、その工場から出る二酸化炭素の一部が地球温暖化に影響をおよぼすかも知れません。そのようなにならないためにも、水を使いすぎないで、汚れる水の量を少なくして行くことがとても大切です。私たちができることの二つ目は、食器について油汚れなどをそのまま洗わずに、ティッシュペーパーやキッチンペーパーで拭き取ってから洗うことです。そのようにすることで、水の汚れをおさえることができ、スポンジもあまり汚れなくなります。これはまさに、一石二鳥です。三つ目は、洗いをしすぎないことです。きれいにしたくて、洗いをたくさん使っても汚れを落とせる量は変わらないため、たくさん洗いを使ったからと言って、想像以上になるわけではなく、かえって水を汚すことになってしまいます。その汚れた水をきれいにするために時間とお金と機械を使います。汚れている水の量が多ければ多いほど、時間とお金を使い、機械からは二酸化炭素がでます。水の汚れが少なければ、きれいにするためにかける時間やお金を減らす事ができます。四つ目は、川や湖、海などの近くに、看

板を立てて呼びかけることです。呼びかけることで、少しは人々の意識も高まって水についての考えや意見が深まると思います。

次に下水処理の役割は、どのようなものでしょうか。私が考える下水処理の役割は、下水を処理して、水をきれいにすることだと思います。なぜなら、下水を処理しないで、そのまま川や海に流してしまつたら、川や海が汚れ、そこに生息する生き物が生息できず、数が減ってしまつたり絶滅してしまつからです。また、川や海を生息地にする生き物の他に、私たちにも悪影響があると思います。下水処理をしていないと言うことは、病原菌やウイルスなど衛生的にも良くないので、病気やウイルスにかかつてしまいます。自然の生態や私たちの健康を守ることが下水処理の大切な役割だと思います。

私たちが暮らす地球は、水の惑星と呼ばれていますが、その水は無限にあるわけではなく、限りがあります。この地球と言う星に生息する生き物のほとんどが、生きて行くには、水を必要として生きています。生きる上で、かかすことができず、限りのあ

る水だからこそ今よりも大切にしなければいけません。限りのある水を、これからどのようにして扱うかによって、生き物全ての未来と地球の未来が決まるのではないかなと思います。私たちの行動によって、未来は変えることができますと信じています。今の私たちができることは、正しい行動をとり、水を大切にすることです。全ての生き物が生活しやすい世界をつくるには、一人一人が協力し、水の大切さを子孫に語り継いで行くことが大切だと思います。私は、これからも水の大切さをよく考えて生活したいです。誰か一人の正しい行動、考えが世界中の人々に波紋のように広がって、誰もが生活しやすい世界になってほしいというのが私の願いです。

## 入 選

私たちと水のこれから

開智望中等教育学校

二年 鴻 巢 琳 央

地球は水の惑星と言われている。だが地球上にある水は約九十八%が海水で、淡水は約二%、その大部分は北極や南極の氷山などで占めている。そのため陸上生物が利用できる水は全体の〇・〇一%にも満たない。現在、世界人口の四十%以上にあたる三十六億人が水不足に悩まされていると言われていて、水不足の問題は今後も上昇すると予測されている。二〇五〇年には世界人口は約九十七億三〇〇〇万人になると予測されていて、そのうちの約半数の人が水不足の影響を受けると言われている。

水不足は、人々の生活に様々な影響を及ぼす深刻な問題だ。不衛生な水しか得られないために毎日約四九〇〇人、年間でおよそ一八〇万人の子供たちが

亡くなっている。飲み水の問題だけでなく、サハラなどの水不足の地域では、干ばつや地下水の減少、湖沼が小さくなるなど、食糧を作るための農業用水でさえ十分に得られなくなっている。そのため世界の穀物生産の約半分に影響し、水ストレスによるリスクを負うことになる。さらに砂漠化の進行を早めることになり、約百カ国、およそ十億人の生計を脅かすとも考えられている。そもそもなぜこのような水不足がおきているのか。気になって調べてみた。その要因には人口増加や地球温暖化が引き起こす気候変動が水利用を非効率にしていること、人間によって水源が破壊、汚染されていることが挙げられていた。その他にも、アメリカやEU、日本などの先進国の水の大量消費が原因になっていた。近年では、インドなどの発展途上国が近代化したことも原因に含まれている。さらに大きな問題として、輸入に頼っている日本は、その生産に必要な水を間接的に消費している。日本の輸入品のために使われている仮想水は約八百億トンになり、日本の水使用量全体とほぼ同じ量の水を海外で消費していることになる。

例えば、輸入された米、牛肉で作られた一杯の牛丼を食べることは、海外で使われた数トンの水を使用していることになる。私たちが暮らしている日本は世界中から水をかき集め、私たちの普通の生活を送るために多くの途上国の生活を破壊している。

こんな世界を変えるために私たちに出来ることはなんだろうか。私はまず一人一人が水の使い方を見直す必要があると思う。毎日家庭で使う水も工夫すれば節水できる。例えばトイレでは大小の洗浄をきちんと使い分けることで一回あたり最大二L、歯磨きをするときにコップで口をゆすぐと一回あたり約五・四L、吐水量を減らして使えば一分あたり三Lの節水になる。他にも食器をため洗いする、シャワーをこまめに止めて使う、お湯はりの量を少なくする、お風呂の水を再利用するなど。ここに書いた以外にも節水方法はたくさんあるが、これを毎日続けることで家族四人あたり約十七万四〇〇〇Lの水を節水していることになる。

私たちが生きていく上で欠かすことのできない水。だがそんな水も無限にはない。無限では無いから美

しい。だからこそ限りある水の使い方を見直し、水の危機について理解し、少しずつでもいいから水を節水することで、私たち人間やその他の生き物も含め、一つでも多くの命を守ることができると私は思う。



## 入 選

誰もが笑顔で水を使える世界へ

開智望中等教育学校

二年 関 口 さくら

水道の蛇口をひねるだけで、きれいで安全な水が出てきて私たちの喉を潤したり、私たちが手を洗うことで悪い菌などから守ってくれる。

日本では水についての問題を身近に感じることはあまりない。私たちは水があるおかげでこうして生きていける。人間だけでなく地球上のあらゆる生き物にとって欠かすことのできない命の源なのである。

私が水について考えるようになったのは、ある日Aさんが「今、欲しい物は水です」と言っているのをテレビを通して聞いた。私は最初「水なんて簡単に手に入るでしょ」と思ったけれど、Aさんはアメリカで暮らしており、水がほとんど手に入らず、もし手に入ったとしても土やいろんな菌などが混ざ

った汚い水である。という事を聞いて、それから水の大切さについて考えるようになった。

Aさんと同じように苦しんでいる人は他にもいるのか、私は調べてみた。

調べた結果、世界でおよそ6億6300万人もの人たちが安全な水を手で取れずにいるらしい。毎日多くの子供達が池や川など飲用に適さない水源に頼るしかなく、ようやく水源に辿り着いてもその水は泥や細菌、動物のフンなどが混じった危険な水。それらを飲み命を落としている子供達が年間30万人、毎日800人以上にのぼっている。

私たちが住んでいる地球は、地表の3分の2が水で覆われていることから水の惑星と呼ばれている。

これだけ水があるのに、私たちが使える水は0.01%しかないことを聞いて私は驚いた。そして、食糧や生活用品などの生産過程で使用される水を含めると、日本人は一日あたり300リットルを超える水を使用しているらしい。

このような事を聞いて私たちはこれからどのようなことを意識し、心がけて生活していけばいいのか

考えてみた。

一つ目は、水を無駄にしないこと。日頃から節水を意識しながら生活するという事だ。水道水を出しっぱなしにしない、雨水の利用を心がけたり、汚れを拭き取ってから洗うなど、これはほんの一部に過ぎない。心がけられることは他にも沢山ある。これらを毎日コツコツと積み重ねていくだけでも、水がないことで苦しんでいる人の力になる。

二つ目は、お金の寄付、募金。募金こそ水の豊かな国に住む最も手段で行うことのできる支援活動だと思う。寄付されたお金は、汚れた水を安全な飲料水にする浄化剤を購入したり、下痢による脱水症状から子供を救う経口補水塩を提供したりと、お金を寄付するだけでも、十分苦しんでいる人たちを救える。

私は今まで、地球上の水は無限にあるのだと思っていた。しかし、この作文を通して、水がなくて苦しみ、死に至っている人たちがいる。私はこれから無駄に水を使うのをやめようと思う。

そして世界中の人、みんなが安全できれいな水を

使える世の中になってほしい。

私はそう願ひ、今日も苦しんでいる人の力になりたい。

## 入 選

### 海洋汚染について

開智望中等教育学校

一年 古 谷 瑠 士

現在、世界では海洋汚染は深刻な問題となっています。日本でも海洋汚染は大きな問題となつていますが、何が原因となり生じているのでしょうか。

海洋汚染の主な原因の大半は海洋ごみによる汚染だそうです。環境省によると、海洋ごみは年々増え続けており、このまま何の対策も行わなければ二〇五〇年には海洋に住む生物よりもごみの方が多くなると言われています。海洋ごみの中でも特に深刻なのは海洋プラスチックごみです。生物や環境に多大な影響を与えるものもあり、そのほとんどは、人の日常の暮らしから発生しているものばかりです。海洋汚染の影響は様々なところに現れています。その中でも特に目立つのは海洋生物やその周辺で生きる

生物の減少です。海洋生物の多くが海洋汚染により住みづらい環境ができてしまい、ごみや油、化学物質を取り込むことで大量に死んでしまう生物も少なくありません。また、これまで産卵などをしていた場所が海洋汚染でできなくなりその数を減らす原因にもなっています。この状態が続くと、漁業にも影響が現れます。生態系のバランスが崩れることにより、これまで獲ってきた魚介類の数が減ってしまいます。そうなると私たちが食事の中で取り入れる魚介類が減るばかりか、漁業者を減らすことになるのです。漁業者は海浜清掃活動や植木など、環境保全も行っていることから、漁業者数が減ると海洋環境はさらに悪化する可能性があります。海洋汚染によって負のスパイラルが起こり、余計に汚染を進めてしまうことにもなりかねません。それだけ海洋汚染は深刻な問題になっているのです。

海洋汚染を防ぐためには国や企業の取り組みや努力だけでなく、私たちができることを行っていかなければなりません。先述しましたが、海洋汚染の主たる原因は海洋ごみであり、その海洋ごみの多くは

私たちの生活から出ていくのです。そうなると私たちが日ごろから気をつけ、取り組むことが必要です。そこで、その私たちができる取り組みを三つ考えました。一つ目はエコラベルが付いている商品を買うことです。エコラベルは適切な漁業管理と水産資源の利用ができており、その中でも持続可能で環境に配慮した漁獲あるいは養殖された水産物であることを表したマークです。つまり環境に配慮しつつ、私たちに届けられた水産物であることを示すマークとなります。これらが貼ってある水産物を購入することで、適切な方法で漁業を行う人々が潤うことになり、より多くの漁業者がエコラベルの認定を受けた適切な漁業を行うようになります。これにより、海洋環境を守る手助けができるのです。二つ目は海岸や河川のごみ拾いをする事です。海岸や河川には漂着ごみや不法投棄されたごみがたくさんあります。これらを放置すれば、海洋に流れ出し、海洋ごみとして海洋汚染を引き起こします。そうなる前にごみを拾うことで、流出を防ぐことができます。一人で言うこともできますが、その量はあまりにも膨大で

あるためボランティアなど清掃活動に参加するとよいと思います。そのような活動に参加し、また周りに広めていくことで清掃活動をする人が増えれば、自ずと海岸や河川のごみを減らすことも可能でしょう。三つ目はごみを出さないエコ活動を行うことです。そもそもごみを出さないということも大切です。特にプラスチックごみは大量に出ており、海洋汚染の原因となっています。これらを防ぐため例えばマイバッグやマイボトル、マイ箸を使用したりするなど、エコ活動を行うことでごみを減らすことができます。

海洋汚染は海洋生物にも私たちにも悪影響を及ぼしています。みなさんも、海洋汚染について考えてみてください。

## 「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年 5月31日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

### 「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決をはかり、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することといたしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている8月上旬が適当であるので、その初日である8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

## 第43回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

### 1 募集要領

#### (1) 趣 旨

「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め、理解を深める。

#### (2) テ ー マ

水について考える（題名は自由）

#### (3) 対 象

令和3年度に県内中学校、中等教育学校1～3年次及び義務教育学校7～9年次に在学中の者

#### (4) 応募締切

令和3年5月7日（金）

#### (5) 原稿枚数

400字詰原稿用紙4枚以内

### 2 応募状況

#### (1) 応募総数

1,101編

学年別      1年 134編      2年 173編      3年 122編

#### (2) 応募校

11校

水戸市立第一中学校、水戸市立第四中学校、水戸市立笠原中学校、  
日立市立日高中学校、牛久市立牛久第三中学校、筑西市立下館中学校、  
鉾田市立鉾田北中学校、土浦日本大学中等教育学校、開智望中等教育学校、  
茗溪学園中学校、聖徳大学附属取手聖徳女子中学校

### 3 審 査

#### (1) 審査方法

予備審査を通過した作品について、茨城県審査会（令和3年5月25日実施）で審査を行い、最優秀賞1編、優秀賞4編、入選7編及び学校奨励賞1校を選定した。（学校奨励賞は水戸市立第四中学校）

また、入賞した上位5作品について、国土交通省で行われる中央審査に推薦することも併せて決定した。

## (2) 審査基準

### ① 優秀作品

テーマ「水について考える」にふさわしく、日常の生活体験や学習を通じて得られた内容で、次の基準を満たすもの。

- ・水の貴重さ、水資源開発の重要性などが適切にとらえられていること
- ・将来の夢、提案等が中学生らしくまとめられていること
- ・抽象的、観念的なものでないこと
- ・字句の正確さや、文章の構成がよくできていること

### ② 学校奨励賞

当コンクールに積極的に参加していること

## (3) 審査委員

委員長	阿部重典	((株)茨城放送代表取締役社長)
委員	武藤秀明	((株)茨城新聞社編集局報道部参与)
〃	鈴木優子	(茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事)
〃	林利家	(茨城県土木部災害・防災対策監兼河川課長)
〃	橋本慎	(茨城県県民生活環境部水政課長)

## 4 表彰

### (1) 表彰式

令和3年7月28日(水)

### (2) 賞及び副賞

最優秀賞(茨城県知事賞)	1名	賞状、副賞(図書券)
優秀賞(茨城県知事賞)	4名	〃
入選(茨城県知事賞)	7名	〃
学校奨励賞(茨城県知事賞)	1校	賞状



茨城県

茨城県県民生活環境部水政課  
〒310-8555 水戸市笠原町978番6  
電話 (029) 301-2625  
<http://www.pref.ibaraki.jp/>